

中長期計画に対する自己評価	
全体評価	S：当初の計画を超え、目標を上回る顕著な成果が得られている。 A：当初の計画を着実に実行してきており、目標に対し十分な成果が期待できる。 B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。 C：当初の計画について半数以上の取組について未達であり、取組や目標に関して一定の見直しが必要である。 D：当初の計画を大幅に下回っており、目標の達成見込みがないため、計画に関する抜本的な見直しが必要である。
B	
評価理由	<p>中長期計画（2018年～2023年度）に定めた施策の実施状況について、以下の通り評価する。</p> <p><中長期計画の見直し、自己点検評価について> 2020年（令和2年）に中長期計画の見直しを図った。これは、協議会内の全大学が参画している『公益社団法人ふじのくに地域・大学コンソーシアム』が活動の充実を図っていることから、本協議会では実施内容の重複を避け、双方が有益な組織として両立することを考えていく必要性を感じたためである。協議会を立ち上げ、中長期計画を策定した際に『社会情勢等を考慮し、必要に応じて相互連携協議会にて見直すこととする。』ということを確認していることから、協議会立ち上げから3年目を迎えた令和2年度に計画の見直しを行った。 また、新型コロナウイルス感染症拡大による急激な社会情勢変化から、各種事業の開催方法にも当初の計画より変更が生じており、中長期計画に定める具体的な施策及びそれぞれの達成度を図る指標についても、実態に合わせて評価することとした。</p> <p><施策の評価について> 自己評価にあたり、中長期計画に定める3つの課題ごとに分析し、全体評価を実施する。 まず、課題①の地域貢献のための人材育成については、新型コロナウイルス感染症拡大でイベント等の開催縮小等の影響はあったものの、平成30年度以降概ね計画通り実行できている。当初の計画に加えて、静岡商工会議所がプラットフォームに参画したことにより、学生の就職活動促進に向けた企画を実施することが出来た。 次に課題②の連携のための組織整備については、共同でのSD研修及び公開講座を継続して実施してきた。新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けやむを得ず開催を見送った令和2年度を除き、毎年開催することが出来た。 最後に課題③の学生ネットワークの環境整備については、高等教育機関を除く協議会構成機関からの依頼も継続的にあり、概ね計画通り実行することが出来た。 総合的に評価すると、令和2年度に中長期計画の見直し後には半数以上の取組を実行できていることから「B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。」と判断した。</p> <p>以上の事から、全体評価は「B：当初の計画をほぼ実行できているが、一部に遅延、未達等の取組があり、目標の達成に継続した努力が求められる。」とする。</p>
評価に関する備考（考慮すべき事項）	
<p>協議会設立時に策定した中長期計画には、目標設定と具体的な施策及びそれぞれの達成度を図る指標を定めていたが、「単位互換」「IR活動」「教職員の人事交流」「共同研究」「奨学金」などの項目は、「ふじのくに地域・大学コンソーシアムとの重複事業である」「実現可能性が低い」等の理由から中長期計画の見直しを行っている。また、各事業への学生参加促進に係る目標数値については、コロナ禍を経て各事業の開催方法自体が多様に变化したことで、多数の学生が参加し充実した内容の案件であっても数値上は当初の目標との乖離が見られた。</p> <p>以上の背景から、2024年度（令和6年度）以降は数値目標にとらわれず、各事業の広報協力・参加促進をより活発かつ迅速に展開するために、中長期計画を定めずに継続的な情報交換を行っていくことを本協議会加盟機関にて協議し決定した。</p>	

課題・達成目標・活動指標・実績・各取組評価					
課題	達成目標	課題を解決する取組概要	活動指標	実績	評価
① 地域経済の活性化及び地域コミュニティなどを通して、地域社会の発展に貢献するために、地域社会が求める素養と産業界で活躍できる専門力と人間力の相乗的な総合力を有する人材を育成する。	地域連携活動の学生参加者数を増加させる。加盟高等教育機関の総数で毎年前年比8%UP、6年間で約1.6倍を目指す。	(取組1) 学生の就職活動促進 静岡市またはI Love しずおか協議会と共同で主催する就職セミナーを企画、検討及び実施	(取組1の活動指標) 毎年度実施	(取組1の活動実績) I Love しずおか協議会と連携した『らぶしずインターンシップ』には、加盟高等教育機関より継続的に参加している。平成30年度5機関から、令和元年度は、4機関からの参加者がいた。令和2年度は5機関から16名が参加。令和3年度は2機関から4名が参加。令和4年度からは『らぶしずプロジェクト』の名称で展開され、令和4年度は3機関から11名、令和5年度は3機関から6名が参加した。 また、静岡商工会議所との連携による企画『地元企業の魅力発信ワークショップ』を令和元年度実施した。令和2年度には静岡商工会議所青年部大学共創委員会主催「大学共創トークイベント」へ協力。2機関の学生ならびに協議会会長がパネリストとして参加。	A
		(取組2) 地域のリスクマネジメント体制の検討・構築 静岡市において地震、津波、火山噴火等の災害時における連携体制の検討及び協議。	(取組2の活動指標) 毎年度実施	(取組2の活動実績) 平成30年度は、『防災マネジメント』をテーマとした共同の公開講座を実施し、地域の災害に関して考える機会を設けることとなった。静岡市の進めている災害ボランティアセンター（サテライト）の設置検討にあわせて、有事の際の連絡先や情報共有の為に連絡先を整理し、明確にすることを検討している。 令和4年9月台風15号による被害に際し、各高等教育機関の状況や支援の取組（学内・学外）について情報共有を実施した。	

②加盟高等教育機関が相互に連携及び協力することにより、質の高い教育と特色ある教育研究基盤を確立し、社会のダイナミックな変化に対応することができる組織体制を整備する。	加盟高等教育機関が連携して実施する事業（公開講座、SD研修、共同研究等）を増加させる。初年度の目標は、事業参画率30%以上、6年間で100%の参画率の事業を目指す。	（取組1）単位互換制度導入及び共同授業の検討及び実施 ①授業科目を共同で開発し、提供する。 ②単位互換を認定した授業科目について、共通のシラバスを作成するし、毎年更新していく。 ③単位互換に使用する共通の施設を設定する。（授業に必要な教室等） ④e-ラーニングシステムの導入を検討する。	（取組1の活動指標） 計画内で実施	（取組1の活動実績） 大学コンソーシアムでの活動が充実してきたことに伴い、協議会での検討の結果、重複を避けるという結論に至り、令和2年度に中長期計画の見直しを行った（削除）。	
		（取組2）IR活動によるデータ分析 加盟高等教育機関内における学生アンケート等による学習時間等の公表可能なデータを分析する。	（取組2の活動指標） IR報告書の作成	（取組2の活動実績） IRに対する各大学等の状況について情報交換を行ったが、各大学等单位での取組み自体が、まだ成熟していない状況にある。協議会での検討の結果、令和2年度に中長期計画の見直しを行った（削除）。	
		（取組3）共同でのFD・SDの企画及び実施 継続的に実施するテーマ及び単発で実施するテーマ等を企画、検討し教職員に広く告知をした上で開催する。	（取組3の活動指標） 毎年度実施	（取組3の活動実績） 検討部会及び協議会において協議し、平成30年度は、共同の『SD研修会』を11月に実施し、延べ60名の参加者がいた。令和元年度も12月に実施し、35名の参加者がいた。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け開催を見送った。令和3年度は3月に実施し41名が参加した。令和4年度は11月に公開講座と同日に実施した。令和5年度も同様に公開講座と同時に2月に開催した。	A
		（取組4）教職員の人事交流の検討及び実施 職員間の発令を伴う短期間の人事交流の検討及び実施	（取組4の活動指標） 計画内で実施	（取組4の活動実績） 発令の伴う1年単位での人事交流は、難しいという判断に至った。協議会での検討の結果、各機関の制度等の制限を受けない範囲での交流について検討を進めて行く。また、令和2年度に中長期計画の見直しを行った（削除）。	

		<p>(取組5) 地域課題解決のための共同研究の検討及び実施 同一法人外の複数の加盟高等教育機関の教員が共同で研究する。</p>	<p>(取組5の活動指標) 計画内で実施</p>	<p>(取組5の活動実績) 協議会での検討の結果、大学コンソーシアム等の実施している『地域課題解決事業』等との重複を避け、令和2年度に中長期計画の見直しを行った(削除)。</p>	/
		<p>(取組6) 共同で学生募集活動にかかる取組の検討及び実施 ①静岡市内において選定した高校、高校生等へのニーズ調査 ②静岡市内において選定した高校訪問 ③静岡市において説明会 ④共通のホームページ、パンフレット等による広報活動(毎年更新)</p>	<p>(取組6の活動指標) 毎年度実施</p>	<p>(取組6の活動実績) 協議会において協議したが、実施には至っていない。</p>	C
		<p>(取組7) 地域の小学校を対象とした教育支援の検討及び実施 学生による小学校の集団下校児童の見守りボランティア活動等の支援等。</p>	<p>(取組7の活動指標) 毎年度実施</p>	<p>(取組7の活動実績) プラットフォームの企画ではないが、参画団体の中に地域の小学生の勉強会ボランティアを実施した例があり、参考にしながら企画を検討している。静岡市教育委員会主催のスクールボランティアには、教員を目指す学生を中心に複数の機関で参加者が見られる。 静岡県警察や地域の子どもを守る会と連携して、青パトでの見回り活動に一部の大学の学生が試行的に参加した。また、静岡新聞社・静岡放送や静岡県警察の主導する「しずおかランニングパトロール」へ参画する参加団体もあり、今後の他機関への拡がりについて検討を進めている。 令和4年度には各高等教育機関の個別の取組について情報共有を実施した。</p>	B
		<p>(取組8) 公開講座の共同実施の企画及び検討 主として静岡市民を対象とした公開講座を企画・立案し開催する</p>	<p>(取組8の活動指標) 毎年度実施</p>	<p>(取組8の活動実績) 平成30年度は、『防災マネジメント』をテーマに開催し、令和元年度は10月に『地方創生』をテーマに『静岡をワクワクさせるスポ</p>	A

				ーツ×エンターテイメントの力』と題して開催をした。令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け開催を見送った。令和3年度は2月に『SDGs』をテーマに『静岡市の取り組みと地域貢献』と題して開催した。令和4年度は静岡市を舞台とする大河ドラマに関連して『徳川家康と駿府』をテーマに11月開催した。令和5年度は『子どもたちが安心して過ごせるまちを目指して』をテーマに2月に開催した。	
③大学の枠を越えた学生同士のネットワークを強化することにより、サークル活動だけでなく、様々な事業に自主的に関わることが出来る環境を整備する。	学生生活に成功体験、充実感及び地域への愛着を持つことにより、卒業後も地域の定住者となり、地域を支える人材となる。静岡市における若年層の1歳階級別社会移動者数、6年後±0人を目指す。	(取組1) I Love しずおか協議会でのインターンシップへの参加促進 加盟高等教育機関の総数で参加人数の目標値を定め、毎年度見直す。	(取組1の活動指標) 目標：年間80名	(取組1の活動実績) 中長期計画の前年度(H29年度)参加者76名。各機関の参加促進活動もあり、目標に限りなく近い参加者を得た。平成30年度はインターンシップの活動計画が大幅に変更し、募集人数自体の縮小に伴い参加者が29名と減少した。形態を変更し、引き続き実施した令和元年度は、8名の参加者であった。令和2年度は16名、令和3年度は4名、令和4年度は11名、令和5年度は6名が参加した。 当初の年間目標人数とは差があるが、各事業内容に応じた適切な人数の学生が参加しており、一定の成果が得られているものと評価する。	B
		(取組2) 静岡市として開催している地域連携活動及びSDGs関連の活動等への参加促進 加盟高等教育機関の総数で参加人数の目標値を定め、毎年度見直す。	(取組2の活動指標) 目標：年間60名	(取組2の活動実績) 平成30年度は『宮川・水上地区まちづくりワークショップ』に15名の大学生が参加した。また、『SDGs』の関連企画に20名以上のボランティア希望者が集まった。『草薙まちづくりインターンシップ』にも21名の参加者がいた。令和元年度は『SDGs』関連の企画にボランティア及び企画参	B

				<p>加の希望者が多く集まった。また、SDGsに関連して、静岡市の『やさしいカイシャの見つけ方』というイベントには、37名の参加者がいた。令和2年度は『草薙まちづくりインターンシップ』には11名、『SDGs』関連企画に18名が参加。令和3年度は『草薙まちづくりインターンシップ』には24名、『SDGs』関連企画に2名が参加。</p> <p>令和4年度は『清水地区インターンシップ』に15名、『SDGs』関連企画に2名が参加。『どうする家康大河ドラマ館 誘客・周遊施策』に29名が参加した。令和5年度は『清水地区インターンシップ』に8名、『SDGs』関連企画に1名が参加した。</p> <p>当初の年間目標人数とは差があるが、各事業内容に応じた適切な人数の学生が参加しており、一定の成果が得られているものと評価する。</p> <p>今後も各活動への学生の参加促進に努めていく。</p>	
		<p>(取組3) 草薙駅周辺エリア及び東静岡駅周辺エリアまちづくり活動への参加促進 課題解決型のプロジェクトチームの結成</p>	<p>(取組3の活動指標) 計画内で実施</p>	<p>(取組3の活動実績) 平成30年度・令和元年度と静岡市と連携して、『草薙まちづくりインターンシップ』企画へのアドバイスを実施した。令和2年度からは、協議会が『協力』という形で、まちづくりインターンシップに講師派遣や学生募集の面で協力をしている。令和2年度は11名、令和3年度は24名が参加した(令和4年度以降は『清水地区まちづくりインターンシップ』として開催され、令和4年度は15名、令和5年度は8名の学生が各機関より参加した)。 また、令和元年度には、東静岡駅</p>	<p>A</p>

		<p>(取組4) 共同で実施する奨学金制度等の検討及び実施 給付型の海外留学等の事業にかかる奨学金の設定及び学生への支援。</p>	<p>(取組4の活動指標) 計画内で実施</p>	<p>から池田地区までの清掃活動を『エコウォーク』と銘打ち、静岡英和学院大学及び静岡英和学院大学短期大学部の企画を協議会が共催という形で実施した。第1回目を令和元年7月に実施し、学生15名、職員9名の参加があった。令和元年12月の第2回目は、天候不良により中止となった。その後は、コロナ禍により実施を見合わせている。</p> <p>(取組4の活動実績) 他団体の企画を参考に協議会で検討した結果、令和2年度に中長期計画の見直しを行った(削除)。</p>	
--	--	---	------------------------------	--	--